



ホスピス・緩和ケアフォーラム2023in松山

ピアノコンサート&親子トーク「看取りから芸術へ」

- ◆ 実施日:2023年11月26日(日) 13:30~15:00
- ◆ 会 場:愛媛県県民文化会館
- ◆ 参加者:約400名
- ◆ 演 者:洋画家 智内兄助
左手のピアニスト 智内威雄
- ◆ 共 催:日本死の臨床研究会&松山ベテル病院



ホスピス・緩和ケアフォーラム2023は第44回日本死の臨床研究会年次大会の市民公開講座として、愛媛県出身で世界的に活躍されている洋画家の智内兄助さんと左手のピアニスト智内威雄さん親子をお迎えして開催されました。威雄さんの演奏はとても左手だけとは思えない素晴らしい演奏でした。



公開講座「看取りから芸術へ」の感想文



自営業 大屋 千鶴子

第44回日本死の臨床研究会
年次大会が2023年11月25日、
26日に愛媛県県民文化会館で

開催されました。副題は「看取りを文化に」です。

ホスピス緩和ケア・フォーラム市民公開講座は「看取りから芸術へ」をテーマに洋画家智内兄助さんと息子さんの左手のピアニスト智内威雄さんとの親子トークでした。

兄助さんは音楽家の奥様、多恵子さんの看取りの中で神仏など大いなるものからの霊性を感じるような幸福な時間を見つけます。それを逃がしてはならないと急遽貴重な映像を制作します。その感動の一部が放映されました。それは多恵子さんと息子さんである

威雄さんとの魂が共鳴するようなパフォーマンス。魂は更に更に浄化していくようでした。避けられない死に対しながらも全てを超えた芸術の世界！後に残る人に多恵子さんの全てを繋ぎます。伝えるー伝わる。お互いの魂の交感が実現します。芸術はより高みへと魂を磨く作業。芸術は精神性から死を受け入れていく力があることを知ります。

会場には今大会のポスターとなった智内兄助さんの原画「空・海・みち」(六曲一隻屏風)など数点が展示されていました。その緻密な制作風景を間近に鑑賞でき感銘を受けます。映像から「死」を学び原画からは「生」を考える感謝のフォーラムになりました。

♪人恋ふはかなしきものを平城山^{ならやま}にもとほりきつつ
堪へがたかりき(歌曲、平城山)

ホスピス財団 第6回国際セミナー …Whole Person Careの共育…

- ◆ 日 時:2023年11月17日(土) 13:00~17:00(大阪)
11月18日(日) 13:30~17:30(東京)
- ◆ 場 所:梅田スカイビル(大阪)、品川インターシティ(東京)
- ◆ 講 師:Tom A. Hutchinson教授 (McGill大学医学部)
- ◆ ファシリテーター
恒藤 暁 氏(京都大学医学部附属病院 緩和医療科 教授)
土屋 静馬 氏(昭和大学 医学教育学講座 准教授)
三好 智子 氏(岡山大学学術研究院医歯薬学域
くらしき総合診療医学教育講座 准教授)
- ◆ 参加者:大阪24名 東京24名



医療者の臨床における患者との関係性を、サティア氏*のモデル（懇願の態度、非難の態度、超理性的な態度、不適切な態度、調和のとれた態度）を用いたロールプレイを行い、そこでの気づきを分かち合うことなど、医療者がWhole Person Careを実践できるための講義と演習がなされた。

参加者からWhole Person Careの目指すところが理解できた、学んだことを患者さんに還元したいなどの感想が得られた。



* サティア：Virginia Satir 心理療法士 ソーシャルワーカー 家族療法の母と言われている

■第9回Whole Person Care研究会

日本Whole Person Care研究会主催の第9回研究会が3月16日(土) 京都大学医学部で開催されました。

テーマ Whole Person Careとの出会いと出合い

講演 恒藤 暁氏(京都大学大学院医学研究科)

グループワーク 橋本教正氏(同上)

参加人数 40名



講演要旨はホスピス財団ホームページで閲覧できます。

近刊紹介

また、あちらで会いましょう 人生最期の1週間を受け入れる方法

四宮敏章著

かんき出版 2022年12月刊 1400円+税

著者は心療内科医であったがホスピス医として歩み始め、その多くの経験から終末期患者でも適切な症状緩和を行えば穏やかに旅立つことができると語っている。そして家族には、最期を迎える数週間のプロセスを伝えることで、不安や緊張を和らげることができるという。*1

また、病気も人生の一部であり、病気は私たちのところを成長させる大きな機会であり、人は死ぬ瞬間まで成長できる力（レジリエンス）をもっていると。さらに著者は、「死は人生の終着点ではなく、私たちの本当の世界は、この世ではなく、むしろあの世にあるのだと思う」と、自らの死生観を語っている。

たとえ私たちががんや重篤な病になり、終末期を迎えても、本人だけでなく、家族も「笑顔と感謝と希望」をもって旅立つことができるということが、著者が本書で一番伝えなかったことだと思う。ホスピス・緩和ケアに従事する人をはじめ、医療に携わる方々、そして多くの一般の方々に読んでいただきたい好著である。

*1…ホスピス財団「旅立ちのとき」が紹介されています。



お知らせコーナー

●ホスピス財団・毎日新聞共催シンポジウム

- ▶「自分らしい死」とは
～リアルな「最後のプロセス」を学ぶ～
- ▶日時：5月12日(日) 14時～16時
- ▶会場：昭和女子大学
- ▶シンポジスト：梅田 恵氏、小川朝生氏、小谷みどり氏
- ▶コーディネーター：滝野隆浩氏

★申し込み方法等の詳細はホームページに掲載



●『日本のホスピス50年』記念…コンサートとシンポジウム

- ▶実施日：2024年9月14日(土) 13時～16時
- ▶場所：ニューオオサカホテル「淀の間」
(新大阪駅徒歩3分)
- ▶記念講演
「日本のホスピス50年と私の歩んだ道」
ホスピス財団 理事長 柏木哲夫氏
- ▶音楽ゲスト 森佑理さん(福音歌手)
- ▶記念シンポジウム
座長
日本ホスピス緩和ケア協会 理事長 志真泰夫氏
シンポジスト
日本ホスピス緩和ケア協会 副理事長 安博博文氏
ホスピスのこころ研究所 所長 前野宏氏
ホスピスケア研究会 理事長 関本翌子氏

★申し込み方法等の詳細は近日中にホームページに掲載

●ホスピス・緩和ケア白書2024 発売中

発行：青海社 編集協力：ホスピス財団
3000円+税
特集 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と緩和ケア



こんにちは ホスピス

桜十字熊本東病院 緩和ケア病棟の紹介

緩和ケア病棟専任医師/院長代行 前田 達観

当院は熊本市の閑静な住宅街にある総病床数57床の小さな病院です。

緩和ケア病棟(21床)としては2007年の開設から17年目を迎えます。

緩和ケアの提供体制としては外来、病棟、訪問診療の機能を有し、「家、ときどき病院。」「病院、ときどき家。」「住み慣れた自宅で。」をコンセプトに、地域の医療機関や訪問看護ステーションと連携し、患者さん一人ひとりが希望される暮らしをさまざまな方法でサポートできるように努めています。



よろこんでもらえるかな

最近では紹介元からの直接的な入院(転院)よりも、外来や在宅からの入院(予定・緊急)が多くなっています。病棟としては慌ただしくはなりますが、患者さんやご家族だけでなく、そこに

携わるすべての人たちにとっての安全基地的な存在であるように頑張っています。

また、当院では緩和ケアの一環としてリンパ浮腫のケアにも力を入れています。入院での複合的治療(用手的リンパドレナージ・圧迫療法・圧迫下での運動療法・スキンケア・日常生活指導など)の提供も可能です。外来では浮腫症状・弾性着衣の状態・自己管理能力などの把握に努め、個別性に応じた提案を行い長期に経過を支援できるように努めています。

これからも「優れて優しく」を合言葉に、いのちの質を高く保ち、生きる喜びが溢れ、こころもからだも元気になる、地域に開かれた病院・病棟でありたいと願っています。

やさしくやわらかな春の風(春風、光風、和風、陽風、恵風…)が皆さんのもとにも届きますように。



ホスピス財団 2024年度 事業計画 (概略)

1. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業 (第5次調査・3年目)
2. 『ホスピス・緩和ケア白書 2025』(特集テーマの概説+データブック) 作成・刊行事業
3. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
4. 『Whole Person Care理論編』発行事業
5. 老病死を支え合うコミュニティづくり-ともいき京都プロジェクト
6. 『日本のホスピス50年』 記念…コンサートとシンポジウム
7. ホスピス財団・毎日新聞社共催シンポジウム
8. 一般広報活動事業
9. 『これからのとき』『旅立ちのとき』 冊子増刷
10. APHN関連事業
11. 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール・インドネシア 第4期共同研究事業 (3年計画の3年目)

*詳細はホームページに掲載しております。

寄付・賛助会員のお礼とお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは
06-6375-7255 です。

- 2023年6月末でCANPAN決済サービスが終了し、新しくSyncable(シンカブル)決済サービスに移行しております。

2024年度収支予算書 (概要)

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位: 千円)

科 目	2024年度予算
【経常収益】	
①基本財産運用益	5,850
②受取寄付金	15,600
(内訳) 賛助会費収入	15,500
一般寄付金収入	100
③雑収益	800
経常収益計 (A)	22,250
【経常費用】	
①事業運営費	32,860
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	11,638
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	10,381
ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業	7,029
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	3,812
②一般管理費	6,000
経常費用計 (B)	38,860
当期経常増減額 (A - B)	▲16,610

不足分は前期繰越金等で充当予定

寄付者一覧

(2023年9月～2024年2月 順不同、敬称略)

(個人)

佐治裕、所昭宏、坂倉有紀

(団体)

日本メノナイトブレザレン教団 石橋キリスト教会、
遺愛女子中学校高等学校、
独立行政法人国立病院機構 沖縄病院

新規賛助会員

(2023年9月～2024年2月 順不同、敬称略)

(団体)

医療法人 尚豊会、もみのき病院、
社会医療法人 松本快生会 西奈良中央病院、
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院

編集後記

1月の新聞に掲載され
た川柳「当たり前この

日常の有り難さ」

能登地震で被災され、日常を奪われた多くの方々に対して、一日も早く元の日常を取り戻せることを祈るものである。そして「日常」という言葉は、私たちにあって当たり前のものでありながら、その有難さを改めて感じさせられる。

ホスピス財団が後援している映画「明日香に生きる」のモデルとなった武田以知郎医師が、2023年度の赤ひげ大賞を受賞されたが、映画のサブタイトルに「素晴らしい日常を守りたい」とある。これは在宅ケアに奉仕する医療従事者共通の願いであろう。しかし、独居を余儀なく強いられている高齢者にとっては、がんをはじめ重篤な病を患った場合、在宅でのケアが難しく、ホスピス・緩和ケア病棟に頼らざるを得ないケースもあるのだと思う。そのような患者さんにとって、その病棟が少しでもその人の日常に近づく居場所となるための努力と工夫も一つの使命ではと

改めて思うものである。その場所がたとえ病棟であっても、そこに「その人らしい人生」すなわち日常が与えられることを願うものである。

編集子

